

2013しずおか木造塾第2講座（天竜林業・設計作法）

木造塾運営委員 名波 正秀

平成25年10月17日（土）の第2講座は、民間会社から金原治山治水財団の理事長になって3年目の金原理事長に天竜林業の抱える課題、これからの夢を語ってもらい、次に香川で父親と弟が大工という建築一家という六車誠二氏（設計者）から、地域材を使うときの設計作法についてお話を聞きました。

I部「林業・木材産業への取組」

金原治山治水財団 金原利幸理事長

○金原明善氏の教え“不言実行”

⇒ 困難から逃げずに、夢を持ち語り、連携して出来ることから即実行



○天竜の木材産業の抱える問題点

- ・コスト高、生産性の低く、多様な品揃え・即時納品ができない。

⇒顧客ニーズに対応できない。

○問題解決の具体的な方針

- ・グループ丸太算出=10万^m
- ・6次産業として、林業・製材・加工・木材販売
- ・エネルギーの地産地消に取り組む

⇒ 持続可能な林業システムを構築し、天竜美林を維持する。

- ① そのためには、天竜に人・物・金を入れる
- ② 遠州の木材産業を守る

<手法>

- ・山林を計画的に購入し、路づくり、伐採、販売
- ・造林コストの低減、徹底的な機械化、作業の標準化 ⇒ 新たな生産流通システムの構築
- ・木材加工事業の強化=Meizenブランド創出 UROCO「焼き杉」、50cm角のユカハリ、杉+
- ・集成材の可能性検討

○明善ビレッジ構想（浜松市内2,000坪）

- ・6次産業連携の連携した住宅関連の展示場計画

○金原理事長の夢=天竜地域の活性化

- ・佐久間浦川スマートビレッジ構想など

II部「若杉活用軸組構法の実践と可能性」

六車誠二建築設計事務所 六車誠二氏（香川）

○若杉活用軸組構法

- ・戦後に植林された若齢材は、低密度植林され間伐が少ないため、芯目が粗い材である。

⇒ホゾの巾をあげる。

梁巾もあげる。

構造材も「丸太が一番近い

形」で4~6寸に集約背割を挽き通して、乾燥に対応するが、伝統的な継手が使えないので、肘木や敷桁を応用する。

（プレカットだけじゃ、面白くない）



○21世紀前半のプロトタイプをつくる

- ・目が粗い材料でも、こんなによい建築をつくったという実感を味わいたい。

⇒ 適寸製材の重要性（樹齢45~60年 杉丸太）

180φ→4寸角、240φ→5寸角、300φ→6寸角

○事例紹介（2件）

「住宅建築」2009年6月号、2011年6月号掲載

○最後に

- ・小さいサイズのチームを各地で組織してほしい。
- ・人を育てるには、正しい仕事が必要である。
- ・環境をゼロから構築できるのは設計者であり、時代にあらがってみたい。

2013しずおか木造塾第3講座（設計作法）

木造塾運営委員 山下 晋一

平成25年11月9日（土）の第3講座は、住宅の設計作法をテーマに東京からお二人の講師を招いてお話を伺いました。

I部「暮らしから発想する、心地よい住宅」 建築家 本間至氏（ブライシュティフト）

○住宅を考える場合、暮らしから発想する。

建築主の暮らしを想像する力が重要で、外観から考えない。住宅の本質は探究心。平面図はすべて1/20で描き、詳細なディテールの検討は、1/5～1/2である。1/20は廊下の幅やスペースなどを考えるためのスケール。その結果として、外観ができあがる。



プランで大事なものは、動きに対する配慮。暮らしの作法を住宅は自然につくってしまう。居心地はその配慮によって暮らしやすさが決まってくる。

特にキッチンでは、いろんな作業があるので、裏動線を確保し、様々な作業に対応できるようにする。

○階段の配置

階段の配置次第で、その住宅の生活動線が決まる。各階段から出た時にどう間取りが合理的に展開しているかが大事。

○窓

窓とは、内部空間とが外部空間の融合する所。光や風を入れるためのもので、窓の開け方ひとつで、その建物の美しさ、美的造形性が決まってしまう。内から外への視線軸の先の開口を細くすればするほど、視線軸は強くなる。

開口が遠ければ、さらに強くなる。

II部「巨匠・宮脇檀に学ぶ住宅設計の本質」 建築家 中山繁信氏（TESS計画研究所）

○建築家・宮脇檀

宮脇檀(1936～98)が亡くなってから15年。とてもハンサムで、モテた建築家。芸術家の家に育ち、センスがあり絵がうまい。ホテルでは必ず実測してから眠りについた。日大で多くの人材を育てた。



○宮脇檀を読みと解く <3つのキーワード>

- 1 モダンティズム：とにかく、格好良ければいい！機能的でも、格好悪ければダメ！
- 2 プライマリー：単純な形、ボックスを先に考え、引き算をする事により空間を生み出す手法
- 3 混構造：2つのものを混合することによって、強さと優しさを兼ね備えた造形を創り出す。

○格好良ければすべてよし！それが宮脇。

たとえ動かなくても、格好よいものをとる。

○名作「もうびいでいっく」（1961年）

宮脇の最高傑作。全く新しい構造的概念とライフスタイルを提案した。そこが凄い！この作品で一躍、有名になった。檀の上のベッドルームとピットの中の暖炉とベンチ。とても落ち着く空間。

領域を設定しないユニバーサルプランの提案が新しいライフスタイルだと話題になった。

実は、チャールズムーアの“シーランチ”を見て影響を受けたという。

○個の住宅と地域環境（街並みづくり）

住環境をよくするのは、外部環境。

家はどんな形でもいい。道と庭、コモンスペース（共有空間）があれば、たとえ建物が悪くても、住環境は良くなる。